

雑穀街道とFAO世界農業遺産セミナー

2018年4月9日(月)

山梨県上野原市役所 展示室3



主催：NPO自然文化誌研究会／雑穀街道普及会

共催：農業法人藤野倶楽部、NPOさいはら、ほか

プログラム

13:00～16:00

受け付け、地域活動の展示紹介

1. 雑穀街道の提案趣旨 雑穀街道普及会

木俣美樹男(農山漁村文化協会理事、東京学芸大学名誉教授)

2. 各地域からの報告

1) 小菅村・丹波山村から

黒澤友彦(NPO自然文化誌研究会事務局長、雑穀栽培講習会)

岡部良雄(雑穀栽培農家)

2) 上野原市西原から

富澤太郎(上野原市農業委員、やまはた農園)

中川智(雑穀栽培農家)

3) 相模原市緑区藤野から

宮本透(宮本茶園、雑穀栽培農家)

休憩

総合討論とまとめ

藤村達人(相模原市農業委員、筑波大学名誉教授)

雑穀街道の提案趣旨

雑穀街道普及会



木俣美樹男（農山漁村文化協会理事、
東京学芸大学名誉教授）

2018-4-9 上野原市役所展示室3

目次

- 雑穀の現代的意義
 - 山村暮らし、自然と関わる生業の楽しみ
- 雑穀栽培の歴史再考
 - 戦時中および敗戦後の農業生産の動向
 - 現代の食糧事情、自給率と自給力(農水省の提案)
- 雑穀街道の提案
 - つなげて、地域経済の自立(自給、贈答、小商い)
- FAO世界農業遺産の認定申請

生業・仕事

- 生きるためにする暮らしの仕事
- 自然に近い暮らしは不便だが、自律して楽しい
- 家族や地域社会のためになる仕事
- 職業ではなく、趣味になることもある
- 給料を得ることも、無償のこともある

注:

生業とは生活を立てるための仕事、自然のもつ多様な機能から生活に役立つ価値を引き出す行為である（春田1995）。

生活のためのしごと（広辞苑はそっけない記述）



移出・移入

輸出・輸入

在来種子

販売種子

戦略物資

生物文化多様性

主要穀物市場

雑穀

律令制、石高制、税制

パンコムギ、イネ、
トウモロコシ

生きる糧

売買する商品

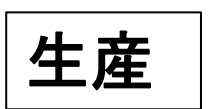
自給、贈答

税、給料

商品

貿易品

都市



有機肥料循環



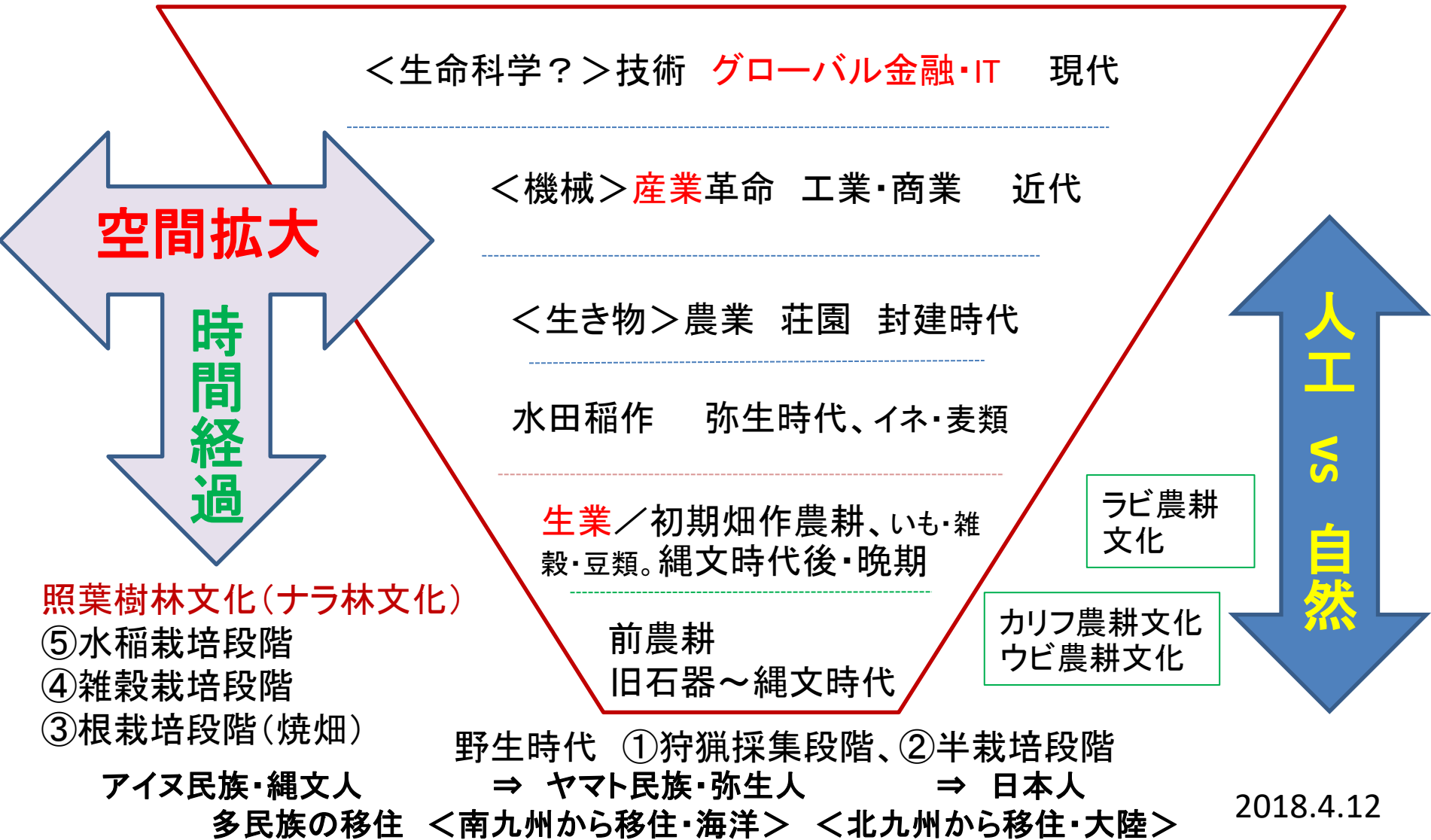
農山漁村

最終処分

現在日本の農耕文化の歴史的多層構造

連続的に、混合的な生物文化多様性への蓄積と衰退

複雑／単純、虚無・便利の超克 (The nothing / The convenience)



日本の食糧事情

2015.10農水省の見解

第1部 食料をめぐる事情

1. 国際的な事情

人口増加と食料需給、生産量・単収は鈍化、経済成長で肉消費量増加、穀物飼料の需要増加、環境変動で自然災害、水資源の不足、穀物国際価格の高値

2. 日本の事情

世界一の農産物輸入、特定の輸入先、イネ米消費の減少、畜産物・油脂の消費拡大、農地面積の減少（608.6万haから451.8万haに）、農業者の減少・高齢化、生産能力の鈍化

第II部 食料自給率・食料自給力

1.食料自給率の推移、向上に向けて

品目別自給率%；イネ米100、野菜80、海藻66、魚60、果実43、乳製品28、鶏卵13、コムギ13、肉類9、大豆7

1965年に73から低下、1993年に37(冷害)、2014年に39%横ばい。先進国中で最低、国民の83%が不安。

森林面積70%に増加、一人当たり耕地面積3.6aに低下。
目標2025年に45%、国産品の消費拡大

2.食料自給力(潜在生産能力)の維持向上

指標試算の前提がない；期間、労力、資材、農地保全。

穀類豆類では不足、イモ類を重視する。

農山漁村への理解、国産品消費、農地・技術の活用、農林業振興、農業者確保。

第Ⅲ部 食料安全保障

1.食料供給に係るリスク分析、対応

リスク分析・評価公表、人口増加による食糧需要、中国の輸入量の増加と競合、国内生産の増大・輸入の安定化・備蓄の確保。

2.不測の事態への対応、家庭備蓄の推進

凶作や食糧輸入停止。緊急事態対応；増産、流通確保、価格規制、生産転換、農地以外の利用、配給・物価統制、石油供給確保。

緊急事態食料安全保障指針：供給機能の維持、家庭での食料備蓄、流通規制緩和。

備蓄の活用、追加輸入、増産、監視、

雑穀の位置づけの現代史再考

- 戦時の政策
 - 雑穀栽培の奨励と配給規制(1944)
- 敗戦後の政策
 - 主要農作物種子法(1952)、稲、麦、大豆
- 日本民俗学の系譜: 山民・雑穀への差別意識
 - 柳田国男の稲作単一民族説←多民族説・山民
- 作物学、戸苅義次らの『食用作物』の系譜
 - 雑穀は消滅
- 考古学における縄文農耕論の拒否
 - 弥生稲作農耕へのこだわり
- 縄文人の後裔アイヌ民族の農耕の否定
- 現代の健康志向、アトピー対策、輸入・高価格

i) 縄文後晩期に農耕文化が順次伝播して以来、数千年にわたって、日本の食材として、人々の生命を支えた糧であり、生きた文化財である。遠くアフリカから来たシコクビエ、モロコシ、中央アジアから来たアワ、キビ、東南アジアから来たハトムギ、おそらく北日本で栽培化されたヒエ、今も絶滅寸前とはいえ、日本各地で栽培されつづけている意義はとても大きい。

ii) 郷土食は混合した食材を用いていた。季節ごとに多様な食材を作ることで、食の多様な楽しみと同時に、飢饉にそなえて食の家族レベルでの安全保障をしていた。

iii) 人口増加、食料不足、食の質的安全、環境変動、社会変動、複雑化や急激な変動に対応するために、伝統的な食、農法を実際に継承しておかないと、家族、地域社会、大きく言えば民族、世界の人々の食料安全保障をすることができない。

iv) 雑穀はC₄植物が多く、乾燥地でもよく生育するので、地球温暖化・砂漠化に対応できる。

穀類の雑穀栽培の現況に関する記述の比較

穀物	文献 戸苅・菅 1957	星川 1980	国分 2010	小原 1981
アワ	明治11年には23万町歩、最近では5万町歩。	鹿児島、熊本、岩手、青森、北海道に最後まで比較的残っていたが、消滅した。	2002年には53ha、72トン生産。岩手県。	明治末期には20万ha、1935年に94200トン、1968年に4450トン、今日は農林統計にない。
ヒエ	明治11年に10万町歩、その後減少して、現在は33752町歩ほどになっている。	明治初期には7～8万トン、敗戦後は3万トン、北海道・東北の一部を除いてほとんど絶滅した。	1970年代以降は皆無に近くなった。	昭和20年頃まで30000ha以上を維持、昭和40年に19000トン、昭和45年には統計値無し。
キビ	明治33～37年には35000町歩、その後昭和25年代までは20000万町歩。	1960年代に2000ha、1970年代にはほとんど消滅した。	1950年代までは2～3万ha、1970年代にはほとんど消滅、まれに小鳥のエサ用に栽培。	昭和43年は1920トン、
モロコシ	戦後の食料難の時期に、一時増加し、5557町歩、最近では4,000町歩に減少。	食糧として価値が低く、ほとんど捨て作りされていた。昭和40年頃には食用は消滅した。ただし、昭和52年には飼料用に520万トンを輸入していた。	1941年には3500ha、1965年には食料用はほぼ消滅。150万トン輸入。	
シコクビエ	山間地に少量の栽培がある。	ほとんど絶滅に瀕している。	不明	ほとんど栽培されていない
ハトムギ		薬用栽培	水田転換用栽培	
トウジンビエ	日本では見本程度の栽培	試料用栽培試験		飼料栽培

戸苅義次・菅六郎（1957）の食用作物は古典とも言われる書籍で、その後、星川清親（1980）により新編食用作物、国分牧衛（2010）新訂食用作物、養賢堂へと継承された。

小原哲二郎1981、雑穀—その科学と利用、樹村房。

1950年世界農林業センサス・市町村別統計表

穀物 都道府県	あわ		もろこし		きび		ひえ		しこびえ		とうじんびえ		はとむぎ		そば	
	農家戸数	面積 町	農家戸数	面積 町	農家戸数	面積 町	農家戸数	面積 町	農家戸数	面積 町	農家戸数	面積 町	農家戸数	面積 町	農家戸数	面積 町
1北海道	15677	1177.17	2827	245.8	63951	15092.44	36073	8008.47	103	13.17	0	0	57	11.25	68731	19865.54
2青森	33663	3200.75	2199	99.92	6513	199.55	26536	590.66	33	1.98	0	0	53	2.19	34199	593.38
3岩手	51299	3883.74	9310	154.25	17824	443.17	56474	14064.67	83	13.41	12	0.43	84	2.72	46519	3608.67
4宮城	9659	275.57	8869	118.41	5004	126.91	612	30.48	2	0.01	16	0.31	34	1.24	12309	523.44
5秋田	10503	598.04	534	6.28	3421	42.77	1258	71.04	5	0.10	0	0	54	0.72	19213	721.09
6山形	11778	287.16	10592	111.21	6750	97.55	804	40.77	0	0	0	0	132	2.73	37029	1300.69
7福島	55758	1981.10	25112	384.89	11839	283.71	4147	171.08	57	1.45	0	0	232	4.88	36362	832.06
8茨城	97420	3118.02	35263	735.81	3219	53.4	953	30.78	36	0.62	3	0.66	329	9.55	84207	3902.64
9栃木	22321	628.56	5362	78.49	2994	79.95	13107	1332.00	55	2.67	16	0.45	495	12.39	48580	2249.58
10群馬	24284	1367.33	9277	181.82	13816	446.75	8648	507.90	2352	63.40	0	0	150	2.84	27137	1152.44
11埼玉	47298	1006.55	33942	489.28	9085	204.23	610	18.03	14	0.46	2	0.03	204	4.23	29737	644.17
12千葉	59641	1359.93	31219	442.58	14236	281.38	343	6.71	77	0.68	0	0	154	3.49	51811	517.56
13東京	30230	1104.51	10905	165.81	8711	256.33	442	9.07	74	1.51	0	0	89	1.77	8611	179.44
14神奈川	58076	2121.21	5467	126.72	2559	59.31	428	12.28	48	1.27	34	0.80	28	0.47	12831	435.41
15新潟	28907	985.89	7499	79.46	15598	183.89	6306	251.28	816	27.13	0	0	344	13.62	77610	2419.31
16富山	9577	167.11	364	1.30	4594	34.39	1458	26.98	2	0.13	0	0.00	60	1.37	17460	453.92
17石川	13134	155.70	9588	70.17	16810	124.80	1783	46.39	18	0.19	0	0.00	35	0.37	22900	404.06
18福井	19832	275.65	1765	11.90	14091	123.84	2486	91.75	15	0.10	0	0.00	40	0.39	32944	623.24
19山梨	24191	668.50	6655	122.62	31116	1194.91	1990	62.25	201	2.02	218	4.09	242	4.60	21931	556.27
20長野	112827	4210.12	18535	287.71	43920	1079.37	15727	765.71	335	9.97	295	4.91	187	2.36	59264	2687.43
21岐阜	44966	736.33	16764	175.84	36633	511.85	12938	614.04	1875	26.46	0	0.00	212	2.21	24292	351.99
22静岡	49604	1116.04	13801	145.98	27035	437.15	3176	115.74	459	15.36	64	1.47	157	2.80	67856	1478.65
23愛知	43210	803.32	10825	99.54	43041	738.74	2051	49.72	11	0.06	81	0.80	88	2.11	32434	474.43
24三重	20306	244.88	5659	30.63	6328	59.35	65	0.61	0	0	0	0	72	1.21	17290	278.04
25滋賀	4025	46.70	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
26京都	10020	139.05	756	9.00	5877	55.29	55	0.36	10	0.08	3	0.02	47	0.73	6445	95.48
27大阪	141	2.69	23	0.18	418	2.26	3	0.04	0	0	0	0	0	0	16	0.29
28兵庫	12016	159.27	865	5.75	4760	38.99	97	1.20	94	0.54	0	0	54	0.62	6168	113.02
29奈良	11692	142.50	2462	18.45	5820	64.61	221	2.84	231	2.30	0	0	9	0.17	1430	17.17
30和歌山	5120	40.28	348	1.66	4167	29.79	23	0.12	0	0	0	0	10	0.05	3218	27.94
31鳥取	12770	224.61	423	3.79	2050	1768.00	114	1.86	0	0	0	0	3	0.69	4279	94.69
32島根	25956	433.16	5981	69.50	12579	138.45	163	1.95	1	0.01	27	0.34	54	1.08	28293	438.73
33岡山	27767	674.76	6767	145.61	28233	592.22	169	2.02	1	0.02	7	0.08	158	2.66	29858	857.00
34広島	47148	652.46	5479	76.55	44383	712.88	515	5.64	12	0.08	26	0.16	206	1.84	41205	675.95
35山口	15676	239.16	2821	54.19	14462	182.34	103	1.25	4	0.02	6	0.18	67	1.23	33851	997.04
36徳島	25479	526.93	8901	150.42	15156	255.25	692	31.16	7	0.58	23	0.34	31	0.84	17815	819.96
37香川	4865	92.85	1135	16.34	8608	247.90	10	0.19	0	0	49	0.72	16	0.27	7429	156.30
38愛媛	29155	495.03	6852	67.58	18517	370.96	222	13.76	4	0.08	2	0.03	44	0.78	12390	271.19
39高知	2946	51.34	2615	34.11	3888	39.40	1061	89.69	66	8.34	4	0.04	23	0.86	15528	1153.77
40福岡	23968	712.05	553	4.21	2336	37.43	91	1.31	3	0.03	0	0.00	57	1.08	17142	45879.00
41佐賀	15177	255.80	0	0.00	0	0.00	1	0.01	0	0.00	0	0.00	18	0.32	14073	259.18
42長崎	49915	2577.30	268	3.59	2975	41.99	60	0.91	8	0.12	8	0.15	55	0.92	37273	947.64
43熊本	100774	9486.89	744	18.85	10730	320.47	746	74.21	60	4.15	12	0.42	48	2.11	29158	1781.79
44大分	37445	961.64	349	4.39	5585	97.12	136	2.51	4	0.04	1	0.05	122	1.66	24076	556.11
45宮崎	44518	1960.98	2053	16.74	3277	57.00	639	42.24	0	0.00	2	0.05	54	2.66	76552	4411.43
46鹿児島	205626	14835.23	645	7.54	13154	322.13	38	0.91	0	0.00	0	0.00	65	2.73	162002	9392.61
Total	1606360	66183.86	332373	5074.87	616063	27530.22	203574	26941.31	7176	198.54	911	16.53	4673	114.81	1459458	114921.70

1950年世界農林業センサス・市町村別統計表

穀物 都道府県	あわ			もろこし			きび			ひえ			しろくびえ			とうじんびえ			はとむぎ			そば			
	農家戸数	面積	町	農家戸数	面積	町	農家戸数	面積	町	農家戸数	面積	町	農家戸数	面積	町	農家戸数	面積	町	農家戸数	面積	町	農家戸数	面積	町	
山梨県																									
北都留郡	4878	153.81		1303	24.99		1714	34.75		608	13.92		95	1.57		172	3.35		3	0.03		1312	21.99		
笹子村	161	2.95		0	0		53	0.94		0	0		0	0		0	0		0	0		112	2.01		
初狩村	145	2.38		5	0.05		4	0.09		5	0.13		0	0		0	0		0	0		69	1.15		
大月町	230	5.29		47	0.99		40	0.81		12	0.2		0	0		0	0		0	0		83	1.63		
賑岡村	227	10.06		50	1.19		122	3.01		3	0.08		0	0		0	0		0	0		9	0.1		
七保村	521	15.63		72	2.12		363	11.18		234	5.98		0	0		0	0		0	0		85	1.28		
猿橋町	353	7.61		0	0		69	0.92		6	0.09		0	0		0	0		0	0		94	1.32		
富浜村	365	10.99		11	0.15		30	0.55		13	0.26		0	0		0	0		0	0		123	1.72		
大目村	254	10.97		46	1.94		21	0.94		1	0.08		0	0		0	0		0	0		33	1.00		
甲東村	294	11.08		30	0.56		19	0.34			0		0	0		0	0		0	0		7	0.08		
梁川村	239	10.54		147	3.03		101	1.87		0	0		0	0		0	0		0	0		66	0.86		
巖村	295	11.94		75	1.16		86	1.45		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		
大鶴村	192	8.87		24	0.36		17	0.21		0	0		0	0		0	0		1	0.01		8	0.01		
島田村	215	9.42		8	0.13		51	0.79		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		
上野原町	397	16.3		34	0.44		36	0.7		0	0		0	0		0	0		0	0		11	0.19		
柵原村	327	11.36		342	6.9		259	4.55		38	0.93		0	0		12	0.19		0	0		19	0.33		
西原村	205	2.54		198	2.29		142	1.46		123	2.21		24	0.41		154	3.09		0	0		106	1.32		
小菅村	173	2.92		93	2.09		86	1.26		119	3.21		7	0.11		0	0		0	0		174	2.92		
丹波山村	190	2.94		108	1.50		215	3.68		48	0.69		63	1.04		6	0.07		0	0		199	4.50		
南都留郡																									
秋山村	356	13.23		66	1.44		19	0.44		0	0		0	0		0	0		0	0		16	0.21		
道志村	243	8.12		6	0.18		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		11	0.20		
神奈川県																									
津久井郡	3762	149.22		604	9.68		527	9.54		17	0.26		3	0.11		0	0		2	0.01		199	2.93		
川尻村	258	7.44		84	0.15		52	0.63		0	0		0	0		0	0		0	0		31	0.32		
湘南村	134	4.99		8	0.09		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		
三沢村	120	4.77		14	0.52		12	0.21		0	0		0	0		0	0		0	0		10	0.13		
中野町	393	10.91		0	0		22	0.40		0	0		0	0		0	0		0	0		30	0.3		
串川村	547	13.04		105	1.40		3	0.07		0	0		0	0		0	0		0	0		89	1.63		
鳥屋村	166	5.43		0	0		1	0.02		0	0		0	0		0	0		0	0		13	0.18		
青野原村	231	6.71		0	0		1	0.02		3	0.04		0	0		0	0		0	0		0	0		
青根町	125	3.72		41	1.16		6	0.08		41	1.16		0	0		0	0		0	0		0	0		
内郷村	325	12.02		19	0.24		6	0.08		1	0.01		0	0		0	0		0	0		4	0.08		
千木良村	146	4.42		0	0		36	0.55		0	0		0	0		0	0		0	0		3	0.03		
小原村	38	1.01		9	0.11		14	0.24		1	0.01		0	0		0	0		0	0		0	0		
与瀬村	100	3.42		5	0.08		5	0.12		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		
吉野村	104	4.69		12	0.13		54	0.84		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		
小瀬村	103	5.97		8	0.09		49	0.86		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		
沢井村	130	8.56		4	0.05		74	1.77		1	0.01		0	0		0	0		0	0		0	0		
日連村	90	6.85		9	0.12		22	0.34		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		
名倉村	125	7.96		16	0.66		8	0.13		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		
牧野村	419	23.75		0	0		63	1.36		7	0.15		0	0		0	0		0	0		8	0.17		
佐野川村	210	13.58		49	0.88		94	1.78		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		

北都留郡、七保村、丹波山村、小菅村、西原村、柵原村、東京都小河内村は種数が多かった

雑穀の現代的価値

- 1) 生きるための食べ物(生産) vs 売るための商品(消費)、過剰生産、グローバル・貿易、大量廃棄の反生命倫理性。
- 2) 生活に基盤をおく伝統的な知識体系の継承、生物文化多様性の保全。言語、民族、信仰など少数者の誇りを高める。
- 3) **健康・予防医学、栄養学** vs 治療医学、心臓病、がん、糖尿病、肥満などを改善する。

4) 飢饉時の食糧供給

地震や台風などの天災、環境変動や戦争などの人災に備えねばならない。

大都市には国の食糧備蓄があり、各地から食料が集まる。隠匿物資も集まり、高値で売られる。しかし、金や物をもたない人々は買えず、入手できないで飢える。

田舎は、ある物しかなく、都市から食糧供給は困難、自力で対応できるように準備しておく。ただし、長期化した場合、自然から得る食べ物はある。

5) 科学的知識体系の過剰な技術的発達、便利すぎる(非人間化)、過剰な化石燃料やエネルギーの消費。

6) 化石燃料は減少、低エネルギーの真文明に向かうように、準備を始める。現代文明の崩壊に備える。

現代文明の反省をし、現在を先真文明の時代トランジションとして把握し、近未来を想定するならば、伝統的知識体系は、原理・原則・原論の基層を提供する。

道に迷ったら、出発点に戻るのが良い。

(参考) 九州・沖縄の雑穀と近代食生活史

- 九州・沖縄地方は半島と島嶼が多く、また山がちで平野が少ない。山海の産物に恵まれている。温暖であるが気候は複雑で、食材は地域によって異なる。
- 16世紀以前: オオムギ、コムギ、イネ、アワ、ヒエ、キビ、モロコシ、ソバ、サトイモなど
- 17世紀から太平洋戦争以前(1925頃): オオムギ、コムギ、イネ、アワ、ヒエ、キビ、モロコシ、トウモロコシ、ソバ、サトイモ、サツマイモなど **自給自足的**
- 太平洋戦争中・敗戦後(配給制度1945頃): オオムギ、コムギ、イネ、アワ、ヒエ、キビ、モロコシ、トウモロコシ、ソバ、サツマイモなど
- 高度経済成長期から現在(2017): イネ、輸入;コムギ、トウモロコシ、雑穀、畜産製品 **自給しない日本**

戦時と現在の農作物作付面積													
年次	稲	麦類	甘藷	馬鈴薯	雑穀	豆類	野菜	果樹	工芸作物	緑肥作物	飼料作物	桑	仮総計
1941	3182	1793	311	181	258	518	444	137	307	506	84	494	8254
1942	3164	1913	323	194	252	503	444	141	284	518	99	413	8284
1943	3110	1813	328	205	259	490	433	124	186	459	113	364	7920
1944	2979	1892	310	207	244	427	414	115	149	434	111	305	7617
1945	2894	1725	404	215	236	382	398	103	127	337	112	242	7201
					ソバ							茶	
2016	1479	275.9	36		6.6	150		219.8		1082		43.1	
改定日本農業基礎統計1977、農林統計協会					仮総計には茶・その他が含まれていない				農林水産省統計データ2018				
単位:千町歩、千ヘクタール			町歩=0.9917ヘクタール										

戦時の最大作付面積に対する現在の比率: 人口比 1.77倍

稲 約 46.5%
 麦類 14.4
 甘藷 8.9
 雑穀 0.1
 豆類 29.0

日本の人口増減の比較			
西暦	人口	増減%	備考
1940	73075071	5.5	
1945	71998104	-1.5	戦死
1950	83199637	15.6	ベビーブーム
2010	128057352	0.2	
2015	127094745	-0.8	自然減

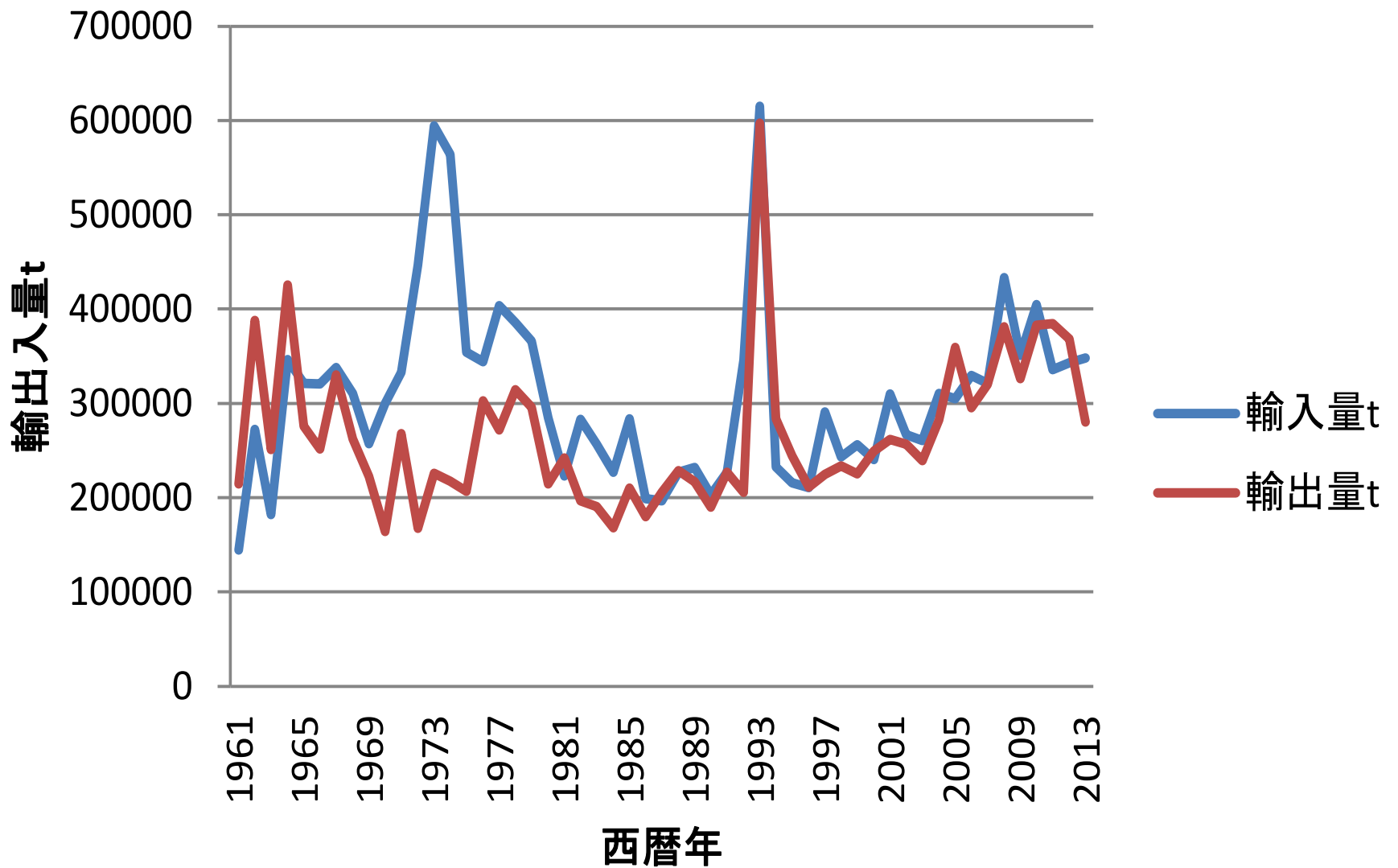


図11.2 世界における雑穀の輸出入量(トン)、FAOSTAT2017

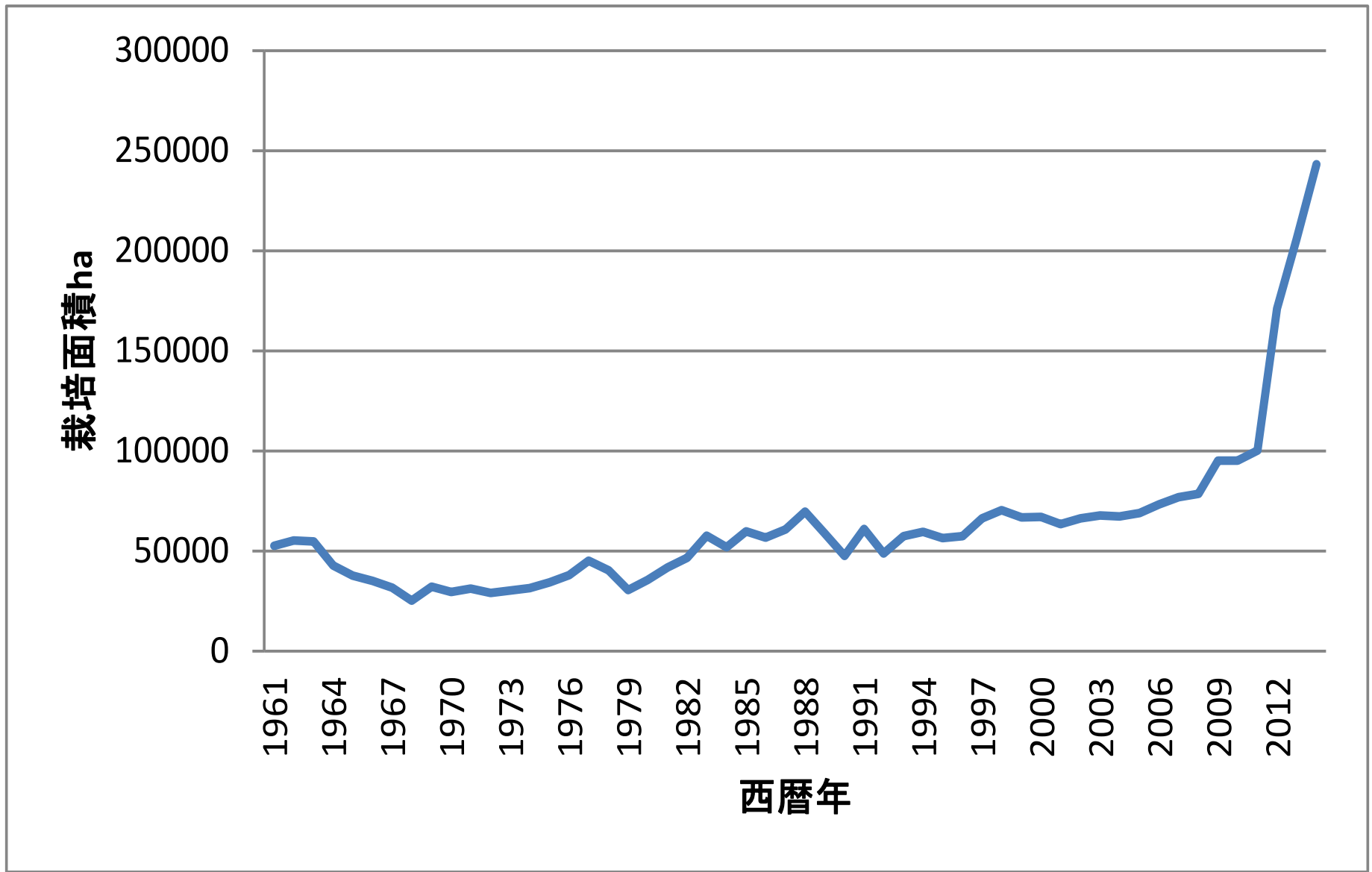
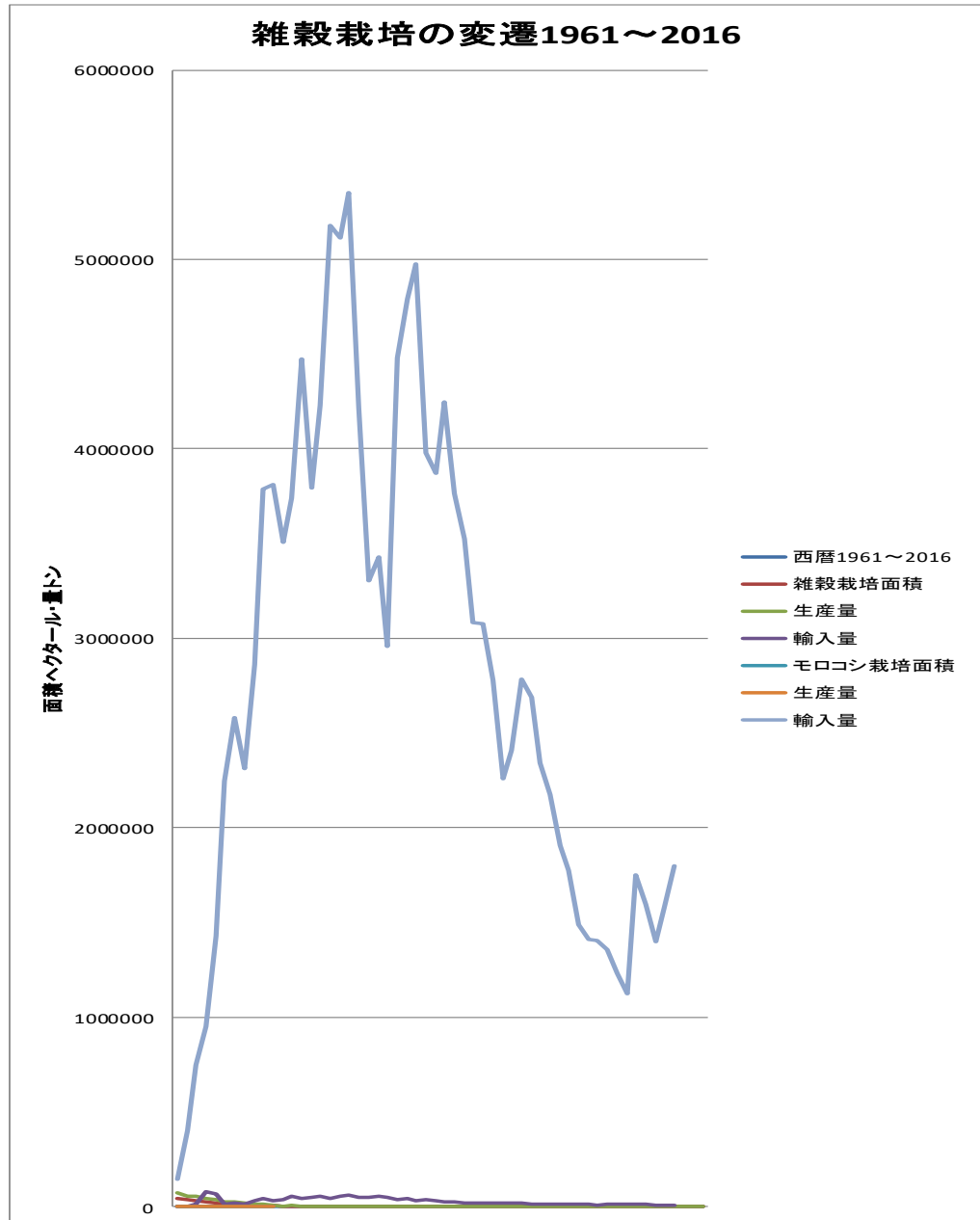


図11.2 世界におけるキヌアの栽培面積ha、FAOSTAT2017



図11.1 世界とインドにおける雑穀・モロコシの栽培面積 (ha)、FAOSTAT2017

西暦 1961～ 2016	雑穀			モロコシ		
	雑穀栽培面積	生産量	輸入量	モロコシ栽培面積	生産量	輸入量
1961	44900	71000	218	1290	1630	146004
1962	37900	56500	926	1110	1380	399951
1963	31500	52500	11534	910	1160	749648
1964	27100	41700	76666	790	920	953036
1965	21500	34200	68901	583	656	1430582
1966	18200	28000	14661	350	400	2247072
1967	14200	22100	19714	350	400	2583645
1968	11200	20100	11763	180	200	2313855
1969	8300	14000	32440	0	0	2859476
1970	6000	11000	43000	0	0	3789360
1971	6000	10000	29019	0	0	3810538
1972	3000	4000	39006	0	0	3504589
1973	3000	5000	56977	0	0	3741703
1974	3000	4000	43811	0	0	4473523
1975	1900	2500	49475	0	0	3793656
1976	650	900	55027	0	0	4227065
1977	850	1100	42852	0	0	5180599
1978	850	1100	57799	0	0	5111834
1979	850	1100	63580	0	0	5354602
1980	955	1240	47365	0	0	4218561
1981	695	957	48439	0	0	3300854
1982	521	833	53256	0	0	3427768
1983	177	232	47877	0	0	2956832
1984	370	653	35794	0	0	4477957
1985	320	558	42073	0	0	4792798
1986	85	145	29479	0	0	4976180
1987	315	535	34568	0	0	3977277
1988	1000	1735	32533	0	0	3869139
1989	1100	1872	22928	0	0	4244413
1990	750	1300	26158	0	0	3763168
1991	350	600	21906	0	0	3524030
1992	390	665	19530	0	0	3084322
1993	400	700	21436	0	0	3079105
1994	390	612	19843	0	0	2777482
1995	406	565	20374	0	0	2255597
1996	421	494	19251	0	0	2405715
1997	300	300	18363	0	0	2781417
1998	300	300	14460	0	0	2686004
1999	300	300	15132	0	0	2340049
2000	381	387	13557	0	0	2177817
2001	373	373	12860	0	0	1907813
2002	366	360	12779	0	0	1775187
2003	359	347	11906	0	0	1490123
2004	352	335	10486	0	0	1410977
2005	347	319	10057	0	0	1403277
2006	340	306	10313	0	0	1354424
2007	333	294	10587	0	0	1233716
2008	326	283	12382	0	0	1123404
2009	318	271	10879	0	0	1751175
2010	309	261	10737	0	0	1593376
2011	299	251	9873	0	0	1395841
2012	300	250	9664	0	0	1575757
2013	300	260	9842	0	0	1798193
2014	254	219		0	0	
2015	260	211		0	0	
2016	251	210		0	0	



食文化の多様性確保はとても重要である。

i) 飢饉に伴う飢餓は過去のことでなく、常に備えなければ、起こる。

近くは1993年のイネの不作を思い出してみれば、たまたま日本は裕福で、他国からイネを買うことができたので、飢餓を避けられたにすぎない。

著しく低い自給率からみても、環境変動(気候悪化)・社会変動(戦争など)が起これば、食料は不足し、買い占められ、飢えることになる。

こうした経験のある古老たちが雑穀を栽培し続けてきた。また、現代の世界情勢を考えれば、私たちもそうした体験をする可能性がある。

ii) 多様な食材をバランスよく用いることが健康長寿によいことは、国内外の膨大な研究で示されている。

iii) 植物中心の食は、生態学的に過剰な肉食よりも多くの人々を養える。

古守豊甫、マクガバン・レポート、チャイナ・スタディほか、栄養学、健康医学、食生態学など、実証的な研究が多くある。

iv) 素のままの美しい暮らしに向けて、今から始めてゆっくり良く変わる。

みなさまへの提案、「さあ山村」

- 山村で暮らした縄文文化の象徴、雑穀や多様なマメ、イモ、野菜を大切にしている。
- 山村暮らしの楽しみと誇りをもって、雑穀街道でむらやまちをつなぐ。
- ホームガーデン、家族小規模自給農耕で、雑穀・野菜などの伝統栽培を維持、郷土食を伝承し、新しい料理を開発する。
- 都会人のためにも、自然や里山での学びを通じた風土産業、日本村塾を創る。
- 伝統知を学び合うことで、素のままの美しい暮らし Sobibo を勧める。
- 相模川・多摩川流域近隣市町村の中山間地との連携、地域経済をつくる。

伝統的な農作物在来品種をめぐる農耕文化、栽培、加工、調理、儀礼などは、縄文時代以来の祖先から継承してきた、現在も生きている大切な文化財である。この山村の生活を豊かにし、男女そろっての健康長寿を支えてきた生物文化多様性がとても大事にされている地域が、私たちの暮らしている関東山地中部地域だ。

街道の歴史、縄文から未来へと、美しく楽しい暮らしを継承する雑穀街道

丹波山村は水源のむら

小菅村は山女魚のむら

上野原市は健康長寿のまち

相模原市はトランジション・タウン

雑穀街道

Hirse Straße



山梨県上野原市桐原は古守豊甫さん(健康医学)、近藤正二さん(長寿学)、鷹嘴テルさん(食物学)、光岡知足さん(腸内細菌学)らの予防医学研究により世界保健機関WHOも調査に来たほど、世界に知られた穀菜食による長寿村でした。雑穀が現在まで栽培され続けているので、多くの研究者たちが訪れています。雑穀を栽培する生物文化多様性が豊かな地域として、上野原市桐原につながる相模川水系の相模原市緑区藤野から多摩川水系の丹波山村までをつなぐ道を、雑穀街道と呼ぶことにします。

東京

多摩川水系

丹波山村: 東京都水源林道の駅たばやま

小菅村: エコミュージアム日本村(トランジション小菅)道の駅こすげ(雑穀販売)、植物と人々の博物館(雑穀栽培講習会、見本園、展示、標本、調査資料、書籍)

相模川水系

上野原市:
西原: びりゅう館(雑穀販売と長寿食)
桐原: 長寿館、旅館(長寿食)
上野原: 長寿村の碑

横浜

相模原市緑区:
トランジション・タウン藤野(雑穀栽培講習会、ローカル・シードバンク、書籍)、
百笑の台所(展示、韓国料理、雑穀販売)

雑穀街道でつなぐ健康長
寿食と農耕文化複合
さあ、山村!

雑穀街道がつなぐ トランジッションタウン

- トランジッションタウン
- ◎ エコミュージアム日本村
(トランジッション小菅)
- ← 雑穀街道

- 鎌倉街道
東京都道18号府中町田線
神奈川県道・東京都道52号
相模原町田線
神奈川県道402号
阿久和鎌倉線

- ⇨ 中央ライン
- ⇨ 湘南新宿ライン



所在地 マップコード **MAPL001** : 8 216 793*22 緯度経度: 北緯:35度19分8.79秒、東経:139度33分1.47秒

所在地 マップコード **MAPL001** : 348 726 331*06 緯度経度: 北緯:35度47分22.95秒、東経:138度55分20.02秒

FAO世界農業遺産の目的

伝統的な農業と、農業によって育まれ、維持されてきた、土地利用（農地やため池・水利施設などの灌漑）、技術、文化風習、風景、そしてそれを取り巻く生物多様性の保全を目的に、世界的に重要な地域をFAOが認定するもので、持続可能な農業の実践地域となる。

これまでFAOは食糧危機を見据え農業の大規模化を推進し、緑の革命の考え方をうけ品種改良や肥料を大量に用いることでの生産性・収穫量の向上を是としてきた。その結果、一部の地域では環境破壊や企業参入による農業の工業化と寡占といった問題が生じた。

その反省を踏まえ、農業の原点を再確認し、農業就労者の減少と高齢化という問題も交えて考えていこうという取り組みが農業遺産の基本理念・姿勢である。農業遺産は伝統的な農業手法の伝承（無形財産）とそれを行う農地や周辺環境（文化的環境・環境財）の保護を目的としている。

雑穀に象徴される山村の農作物を未来にまで継承するために山梨県丹波山村から神奈川県相模原市緑区までを「雑穀街道」と呼んで、FAO世界農業遺産に登録申請したい。

今年申請するのなら、関係市村長に賛同が得られれば、5月下旬～6月初旬に、雑穀街道協議会を発足させ、申請書を協議、6月中旬には申請書を完成して、知事及び学術機関の意見書を得て、6月下旬の期限までに提出することが望まれる。

申請に必要なこと

- 申請書類一式の案はとりあえず書ける。

必要書類：認定申請書、県の意見書、学術機関の意見書、申請者の概要

- 現状では、6月までに申請できるように、雑穀街道協議会を設置して、保全計画を立案し、内容まで合意することは困難である。
- 次期に申請をするのなら、2年後に向けて、どのように活動を進めるか。